



熊本県立ひのくに高等学校 (ドットコム)

職員室.com

平成28年5月11日 創刊号

助けあい 励ましあい 志高く

これは、心豊かで潤いに満ちた郷土熊本を築いていくために県民一人一人が持ちたい心として熊本県が提唱したものです。

その意味するところは、日常生活の中で心のあり方として、お互いに相手を尊重し、協働・共有の相互扶助、志高きの心を持ちながら主体的に明日に向かって生きていく精神を表しています。

「熊本スピリッツ」でこの危機を乗り越えていきましょう。

さて、4月14日の地震発生以来、生徒たちはもちろん、各ご家庭、教職員の住居や心にも大きな痛手を残しました。4月末日には県の施設課・営繕課から校舎等の安全確認が行われ、2カ所ほど継続して確認が必要なところがありますが、安全性には問題ないとの判断をいただきました。また、登下校時の安全確保、寄宿舎への対応など、県教育委員会担当課と情報交換を重ね、再開の運びとなりました。昨日は、再開初日でもあり、今回の地震で亡くなられた方への黙祷、校長講話、危機管理研修と生徒の心のケアに関する授業等を行いました。特に3年生に関しては、「現場実習はどうなるのだろうか？」など、進路に対する不安感もあると思います。今回の地震で、受け入れ予定先の事業所の多くに被害があり、受入が難しいというところもあります。事業所と打合せをしながら、臨機応変な対応をしていきたいと思います。また、1学期の授業延長等も図りながら学習保障も計画しています。

まだまだ、続く余震への不安や日常に戻ったとは言い難い生活の中で、一步步、ゆっくりでも止まらなければ結構進むと思いながら学校生活づくりに取り組んでいきたいと思います。余震の状況によっては急な予定変更もあり得ます。また、登下校時の安全管理も必要です。危険回避、危機への対応に課題のある生徒たちです。周囲に「ヘルプ」を求めるスキルを身につける機会でもあります。保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

本震後の本校前の様子です。 →

伊丹から災害復旧支援の自衛隊駐屯地として多くの隊員の皆さんが3週間、駐屯されました。全国各地から本県復興に尽力されている姿に感謝です。



県教育長に 宮尾千加子 氏 就任

田崎龍一教育長の任期満了に伴い同氏が後任として就任されました。初めての女性教育長です。

平成28年度 ひのくに高等支援学校の教育

1 本校の教育目標

生徒一人一人の能力・特性に応じたきめ細かな指導に配慮しながら、生徒の自律的、主体的な態度を尊重し、社会自立・職業自立のための教育を行う。

2 校訓 『心』清く 『道』正しく 『生』逞しく

『清く』 学校生活、社会生活というより大きな集団、さらに共生社会において自分らしさ（個性）を発揮しながら、自他ともに認め合う人間関係をつくること。

『正しく』 社会のルールやマナーの理解、善悪の判断、礼節など、道徳的心情を基盤に、判断力、実践力、道徳的態度等を身につけること。

『逞しく』 社会自立・職業自立ををめざし、知・徳・体という実践力に併せて、基礎的・汎用的能力として「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を生きる力として育むこと。

3 校長が定める教育指針

① ・ キャリアを「繋ぐ」教育実践

キャリアとは労働や就職のみにとらわれず、自分でやれることを増やしていこうとする態度や意欲、知的好奇心、感性、生活する力、余暇活動などの生きる力と捉える。その生きる力を中学校から本校における一貫教育や段階的、系統的指導へ、そして社会へと繋いでいく。

② 人と「繋がる」社会生活力育成

共生社会における人と人との円滑なコミュニケーションのために、家族の中で、学校生活の中で、地域社会における人と人とのやり取りの中で、自分自身の個性を発揮するとともに、当たり前のことを当たり前にながら、自他共に認め合える人間関係を育成することが大切である。

③ 社会と「繋げる」進路指導

持っているキャリアを自己認知し、自分にあった仕事は何か、自分の目標は何かなどを自分で選択し、自分で決め、自分で責任をとっていく力を醸成するとともに、社会のルールやマナーの理解、善悪の判断とともに、礼儀を重んじる人格者として生きるための素地を育成する。

1学期の行事について

○体育大会：7月1日（金）にスポーツデイ（仮称）としてプログラムを変更し、授業参観を兼ねて開催します。

○PTA役員会・PTA 総会：7月1日午後開催します。

○現場実習：実施期間の短縮や個別対応をしながら実施します。

●1年宿泊：施設の安全面等を考慮し中止とします。

●高校総体：総合開会式は中止です。●高校総合祭：中止です。

・・・校長のつぶやき・・・

定期異動で荒尾支援学校(ARA・SHI)から本校に赴任しました中山龍也です。障がいのある子どもたちの教育に携わり 34 年目を迎えます。また、もう一つの顔として 30 歳になる知的障がい者の父親でもあります。

この「職員室.com」は校長が不定期に発行するお知らせです。ご家庭と学校を繋いでいきたいと思います。ご一読ください。